

# 平成 30 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 30 年 7 月 7 日（土）

開会：午後 1 時 00 分 閉会：午後 1 時 50 分

場所：六把野新田コミュニティセンター

参加者：男 25 人、女 31 人 計 56 人（うち職員 2 人）

町職員：町長、副町長、総務部長、建設部長、政策課員

- ・開会 13：00
- ・町長報告 13：03～13：10
- ・懇談 13：10～13：50
- ・閉会 13：50

## ○懇談

男性（1） 雑草とか落ち葉、収穫の野菜等廃棄物の話ですが、昨年も話しましたが、今までの資料がパソコンに残っていたので、ここでまとめてお話をさせていただきます。

私は平成 21 年に環境審議会に出たのですが、助言者として大学の先生がその会議に参加されていました。その会議の中で街路樹や草等の焼却についての話があったのですが、助言者の先生は、公園の草木や街路樹の焼却は、住民に迷惑をかけない程度に、焼却しなければ仕方ないと話されました。そして、農業者は枯れ草の処理を規制されては、農業はできないという話がありました。次の年、平成 22 年に私は生活環境課長に書類を出しました。環境部会等で落ち葉のたい肥化について提案したもので、六把野ではこのように堆肥化しているので、参考にしたらどうかと一例を出しました。そして、平成 29 年町政懇談会では、草木の焼却について質問しましたが、町からは抽象的な回答をいただいただけでした。私は、草木の焼却について、今後の参考にしてほしいのですが、5 月下旬に愛西市の船頭平閘門に行き、職員の方に話を聞きました。そこには 3 ヲ所簡易的なごみ処理場があって、常時、草を置いていくところがあります。一輪車に草木を入れてそこに捨てるだけなんです。それがたい肥化されていきます。東員町でも公園や田畑や神社等で簡単にできることだと思います。町が率先して、そういうものを作ることができないでしょうか。実際やっている所が沢山あります。土を掘って、草や葉をそこにためていくのは、農業には必要ないことです。それを町民に理解してもらうことが大事だと思います。野焼きについて話をしても、すぐ消してくださいの一点張りです。野焼きがどうしても必要だという現状を理解してもらうことはできないのか、ただダメというのはよくないと思います。農業者の方にも理解できるようにしていった方がいい。六把野では風呂を焚いている人がいます。暖炉を燃やしている人もいます。外で焼き芋をする人もいます。薪の匂いはするに決ま

っています。焼き草の匂いは残ります。それをダメだというのはどうなのか。自然で穏やかな匂いと理解する方がいいと思います。

町長 生ごみのたい肥化は少しずつ進んでおりまして、たい肥舎は来年度に建てるように考えています。生ごみが今増えてきていまして、今のたい肥舎では一杯になっています。来年度にはもう一つ建てるように考えています。在来では、生ごみを畑で処理している方がいます。生ごみをごみ袋に入れない方向で少しずつ取り組んでいただいていると思います。問題は剪定した木や草ですが、確かに燃やします。ただ通報されると大変です。通報されなければそれでいいのかといわれると難しい所ですが、その折り合いをどうつけていくか、大変難しく結論が出しにくい所です。ストックヤードの東に土地が膨大にあるので、そこを草木のたい肥化できる所として考えるのも一つの案だと思います。地域でそういったことをしていただくのも一つの案です。町としていただきた提案を参考に考えていければと思っています。

男性（１） スtockヤードとかではなくて、地域のその場その場で作ってもらうという話をしているんです。小さい所でしてもらうということです。

町長 町の土地が沢山あるわけではないので、地域の人が地域で自主的にやっていただくはありがたいと思っています。そこには町が入っていくことができませんので、地域で話をしていただいて、作っていただければと思っています。

男性（１） 地域で集積場がありますが、そういうようなものを作ってもらえればと思います。愛西市はごみ処理が進んでいるところで、持ち出さずにそこだけで済んでいます。地域にそういったものを作れば全額補助するようつもりでしてほしい。

町長 まずは、土地も含めて地域で話し合いをしていただいて、我々がどう相談にのれるかという話になってきます。人の土地に何かを作ることはできませんので、地域で具体的に、この土地にこういうものを作りたいと相談いただくこと、そこから始まると思います。

男性（１） ふれあい公園に穴を掘って水が溜まらないようにして、そこに草木のごみを入れて沈んでいくのを待っているんです。まずは、総合文化センターの前や公園でそういうものを作ってもらえないでしょうか。

町長 スtockヤードの所に空いている土地があるので、町がモデル的に作る場合に、町の土地で思いついたのがストックヤードの隣になります。

女性（１） 今のごみの提案はすごく良いことだと思います。六把野でもサークルを立ち上げて

草取りをしています。また、花卉クラブでは花の処理に困っていましたが、穴を掘っていただいて、大変助かっています。

女性（２） オレンジバスの件で、便数が減って不便を感じています。もっと小さいバスでもいいので、小回りのきくものにしてもらって、細かい周り方とかはできないでしょうか。六把野は三重交通のバスが走っているため、オレンジバスがその道路を通らないので、そこを何とかしていただけないでしょうか。

総務部長 オレンジバスの車両は、平成 17 年の 4 月から導入し、14 年に入ってきています。3 台のバスで、1 台 80 万キロ程走り、車両に痛みも生じてきていますので、買い替えも考えていかなければいけません。もともと、5 年間の実証運行をしてどのルートを通らそうか検討し、乗客の少ないルートを変更してきたのが現状です。走っていない地域もあったので、できるだけ解消しようと 3 台のバスを導入しました。この先バスの更新のときには、3 台いるのかと考えると、2 台は残さなければならぬかなと思っています。また、減った分を小さいバスにするなどということも考えています。またご家庭の家からというような、タクシー形態も考えなければいけませんし、料金も今は一律 100 円ですが、このあたりも一緒に見直して見まして、この先、1 年や 2 年の間には方針を出していかなければと考えています。

町長 バスのルートには色々ありまして、一度通っていない部分を回ったことがあります。時間がかかりすぎるなどと評判が悪かったこともあります。また、元に戻したら今度はなぜ、来ないのかという意見もありました。町内全てをぐるぐると回るわけにもいかないですし、乗客がないという声もあります。オレンジバスでは行けない狭いところも町内にはありますので、狭い所までいける物を活用するか、スマホや携帯で呼んだら来るような形態も考えていかなければいけない時期が来ていると思っておりますので、もう少し時間をいただきたいと思えます。

男性（２） 県道の話ですが、夜大きな車が通ると安眠を妨げます。建設課と桑名の県の事務所へ要望も出しており、回答もいただいております。しかし現状で音がするところは、マンホールの周りです。道は県でも上下水は町ですので、再度見ていただいて、町でもできるところは善処してほしい。

建設部長 マンホールですが、今年度六把野新田で 2 カ所ほど修繕はさせていただきましたが、全地域にマンホールがあり、修繕全てを六把野地内というわけにはいきませんので、しっかり優位順位をつけて対応していきたいと思えます。現地調査も建設部として現地に出了るときはしっかり見るようにしていきたいと思えます。